

平成 24 年
2 月 28 日

病害虫発生予報 3 月号

茨城県病害虫防除所
茨城県植物防疫協会

農薬は農薬使用者が責任を持って使用しましょう！
～うっかりミスにご用心！使い慣れた農薬でも、
使用前に農薬のラベルを必ず確認しましょう～

< 目 次 >

. 今月の予報

【注意すべき病害虫】

イチゴ：うどんこ病，ハダニ類	1
促成ピーマン：斑点病	2
促成・半促成ピーマン：うどんこ病，アザミウマ類	2
施設野菜（促成キュウリ，促成トマト，イチゴ，促成ピーマン）：灰色かび病	3

【その他の病害虫】	3
イチゴ，促成キュウリ，メロン，春ハクサイ，春レタス	

【防除所レポート】	4
促成トマト：黄化葉巻病	

. 今月の気象予報	5
-----------	---

本文に記載されている薬剤は平成 24 年 2 月 22 日現在のものです。

最新の農薬登録内容は、(独)農林水産消費安全技術センターホームページの「農薬登録情報提供システム」(http://www.acis.famic.go.jp/index_kensaku.htm)で確認することができます。

詳しくは、病害虫防除所へお問い合わせ下さい。

茨城県病害虫防除所 Tel :029-227-2445

予報内容は、ホームページでも詳しくご覧いただけます。

ホームページアドレス <http://www.pref.ibaraki.jp/nourin/byobo/>

・ 今月の予報

【注意すべき病害虫】

イチゴ

1. うどんこ病

[予報内容]

発生時期	発生量	発生地域
-	やや多い~多い	県下全域

[予報の根拠]

2月下旬現在、発病葉率、発病果率及び発生地点率は平年よりやや高い。
気象予報によると、向こう1か月の日照時間は平年より少ないと予想され、発生を助長する条件である。

[防除上注意すべき事項]

発生が多くなると防除が困難になるため、初期防除を徹底する。
罹病部は新たな伝染源となるため、できるだけ取り除き、ハウス外に持ち出して処分する。
薬剤は、薬液が葉裏や葉柄にもよくかかるよう、十分な量で丁寧に散布する。また、薬剤耐性菌の出現を防ぐため、系統の異なる薬剤を散布する。
発病を予防するため、硫黄のくん煙処理による省力的な方法もある。
ミツバチに影響する薬剤もあるので、十分注意する。
薬剤によっては、果実に汚れが付くものもあるので、十分注意する。

2. ハダニ類

[予報内容]

発生時期	発生量	発生地域
-	多い	県下全域

[予報の根拠]

2月下旬現在、被害葉率、発生地点率ともに過去11年中1位と平年より高い。

[防除上注意すべき事項]

ハダニ類は増殖が速いので、発生の少ないうちに防除を徹底する。
薬剤は、薬液が葉裏や葉柄にもよくかかるよう、十分な量で丁寧に散布する。また、薬剤抵抗性の発達を抑えるため、同一薬剤の連用を避ける。
ミツバチに影響する薬剤もあるので、十分注意する。
天敵農薬としてチリカブリダニ剤等を使用している場合、薬剤防除は天敵への影響に十分注意する。

促成ピーマン

1. 斑点病

[予報内容]

発生時期	発生量	発生地域
-	やや多い	鹿行地域

[予報の根拠]

2月下旬現在、発病度は平年よりやや高く、発生地点率は平年並である。
気象予報によると、向こう1か月の降水量は平年より多く、日照時間は平年より少ないと予想され、発生を助長する条件である。

[防除上注意すべき事項]

発生が多くなると防除が困難になるため、発生が少ないうちに防除を徹底する。
罹病部は新たな伝染源となるため、病斑の多い葉は取り除き、ハウス外に持ち出して処分する。
薬剤は、薬液が葉裏や葉柄にもよくかかるよう、十分な量で丁寧に散布する。また、薬剤耐性菌の出現を防ぐため、系統の異なる薬剤を散布する。

促成・半促成ピーマン

1. うどんこ病

[予報内容]

発生時期	発生量	発生地域
-	やや多い～多い	鹿行地域

[予報の根拠]

2月下旬現在、発病度は平年よりやや高い。
気象予報によると、向こう1か月の日照時間は平年より少ないと予想され、発生を助長する条件である。

[防除上注意すべき事項]

発生が多くなると防除が困難になるため、発生が少ないうちに防除を徹底する。
罹病部は新たな伝染源となるため、病斑の多い葉は取り除き、ハウス外に持ち出して処分する。
薬剤は、薬液が葉裏や葉柄にもよくかかるよう、十分な量で丁寧に散布する。また、薬剤耐性菌の出現を防ぐため、系統の異なる薬剤を散布する。

2. アザミウマ類

[予報内容]

発生時期	発生量	発生地域
-	多い	鹿行地域

[予報の根拠]

2月下旬現在、寄生花率は平年より高い。

(促成・半促成ピーマン アザミウマ類続き)

[防除上注意すべき事項]

アザミウマ類は増殖が速いので、発生の少ないうちに防除を徹底する。また、各種ウイルス病を媒介するので注意する。

薬剤は、薬液が葉裏や花にもかかるよう十分な量で丁寧に散布する。また、薬剤抵抗性の発達を抑えるため、系統の異なる薬剤を散布する。

天敵を導入しているハウスで薬剤防除をする場合、天敵への影響に十分注意する。

施設野菜(促成キュウリ, 促成トマト, イチゴ, 促成ピーマン)

1. 灰色かび病

[予報内容]

発生時期	発生量	発生地域
平年並	やや多い	県下全域

[予報の根拠]

2月下旬現在、促成キュウリにおける発生量は平年並～やや多く、促成トマト、イチゴ、促成ピーマンにおける発生量は平年並である。

気象予報によると、向こう1か月の降水量は平年より多く、日照時間は平年より少ないと予想され、発生を助長する条件である。

[防除上注意すべき事項]

ハウス内が多湿になると発生が助長されるので、換気、送風、暖房等によりハウス内の湿度を低く保つ。

花落ちが悪い花卉や、罹病部は早急に取り除き、ハウス外に持ち出して処分する。

発生が多くなると防除が困難になるため、初期防除を徹底する。

薬剤防除の際は、薬液が葉裏や葉柄にも届くよう、十分な量で丁寧に散布する。また、薬剤耐性菌の出現を防ぐため、系統の異なる薬剤を散布する。

薬剤散布は、薬液が乾きにくくなる午後からは行わず、晴れた日の午前中に行う。また、曇雨天が続き薬液が乾きにくい場合は、くん煙剤を利用する。

【その他の病害虫】

作物	病害虫名	発生予想	発生概況及び注意すべき事項
イチゴ	炭疽病	発生量：やや多い	2月下旬現在、平年よりやや多い発生である。
促成キュウリ	うどんこ病	発生量：やや多い	2月下旬現在、平年よりやや多い発生である。
メロン	つる枯病	発生量：平年並	2月下旬現在、平年並の発生である。

作物	病害虫名	発生予想	発生概況及び注意すべき事項
春ハクサイ	べと病	発生量：平年並	2月下旬現在，平年並の発生である。
春レタス	菌核病	発生量：平年並	2月下旬現在，平年並の発生である。

防除所レポート [促成トマトにおけるトマト黄化葉巻病について]

2月下旬現在，促成トマトにおける黄化葉巻病の発生地点率は過去6年中1位(本年30%，平年7%)(図)と高く，発病株率も過去6年中1位(本年0.4%，平年0.1%)と高い。発病圃場では発病株が抜き取り処分されていない圃場が目立つ。今後気温の上昇とともにタバココナジラミが活動的になるものと思われ，保毒虫の増加が懸念される。

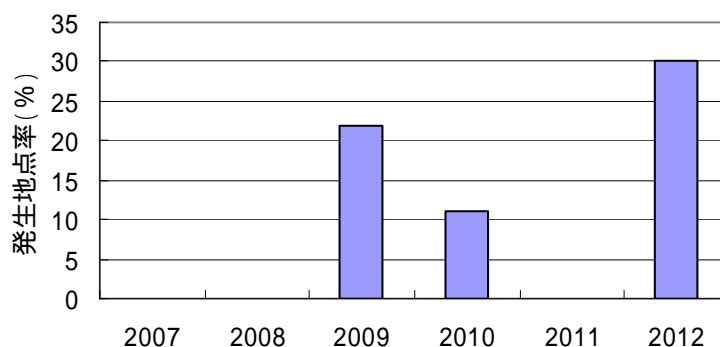


図 2月におけるトマト黄化葉巻病発生地点率の推移

[防除上注意すべき事項]

発病が認められた株は，伝染源となるため早期に抜き取り，ビニール袋等に入れて密封し，株を腐熟化するなどしてから処分する。

媒介虫であるタバココナジラミを防除する際は，寄生する葉裏に十分薬液がかかるよう，下方から吹き上げるよう丁寧に散布する。

雑草はタバココナジラミの生息場所となるため，ハウス内の除草を徹底する。

その他詳細については病害虫防除所ホームページに記載されている「トマト黄化葉巻病対策チラシ」を参照する。

・ 今月の気象予報

関東甲信地方 1 か月予報

(予報期間 2 月 25 日から 3 月 24 日)

気象庁 (2 月 24 日 発表)

< 向こう 1 か月の気温，降水量，日照時間の各階級の確率 (%) >

[確率]

要素	予報対象地域	低い(少ない)	平年並	高い(多い)
気温	関東甲信全域	20	50	30
降水量	関東甲信全域	20	30	50
日照時間	関東甲信全域	50	30	20

[概要]

期間の前半は気温の変動が大きい見込みです。天気は数日の周期で変わりますが，平年に比べ晴れの日が少ないでしょう。

< 1 週目の予報 > 2 月 25 日 (土曜日) から 3 月 2 日 (金曜日)

気温 関東甲信地方 平年並または低い確率 40%

< 2 週目の予報 > 3 月 3 日 (土曜日) から 3 月 9 日 (金曜日)

気温 関東甲信地方 高い確率 60%

< 3 週目から 4 週目の予報 > 3 月 10 日 (土曜日) から 3 月 23 日 (金曜日)

気温 関東甲信地方 平年並の確率 40%

農薬を使用する際は

- 1 使用する農薬のラベルを必ず確認し，適用作物，使用方法，注意事項等を守りましょう。
- 2 散布時には，周辺作物に飛散（ドリフト）しないよう注意しましょう。
- 3 農薬の使用状況を正確に記録しましょう。
- 4 使用後は散布器具やホース内等に薬液を残さず，良く洗浄しましょう。